

ロープネット工法

超軟弱な粘性土からなる埋立地盤の表面にシートと格子状のロープを配置して、地盤の流動破壊や搬出土砂のめりこみを防ぎながら覆土を施工する工法です。その原理は、軟弱地盤上をシート・ロープで密閉し、帯状に盛土を施工することにより、盛土間に発生する揚圧力を利用して覆土を施工するものです。

特長

敷網工法に比べて、材料費が安価です。

表層混合処理工法を併用することによって50m×50mで仕切った区域を陸搬により覆土することが可能です。

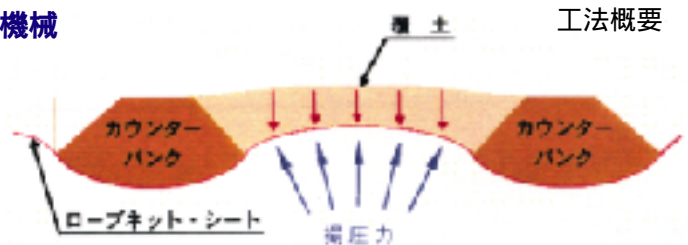
施工手順

シートとロープを敷設

カウンターバンク(盛土)を格子状に施工

バランスをとりながら覆土施工

施工機械



工法概要



施工状況

施工実績

工事名	工期	施工場所	発注者	目的	施工面積 / 覆砂(土)厚
宮島海域環境創造工事	89.12 ~ 90.3	広島県	広島県	軟弱な地盤上への覆土 養浜工の支持力補強	18,000m ² / 0.5m
五日市港湾環境整備工事	90.6 ~ 90.8	広島県	広島県	軟弱な埋立地盤上への覆土	50,800m ² / 0.8m
大竹港環境整備 浚渫土表面処理工事	90.10 ~ 91.3	広島県	広島県	軟弱な埋立地盤上への覆土	137,000m ² / 1.0m
T 7埋立地地盤改良工事	97.7 ~ 98.3	山口県	(株)トクヤマ	軟弱な埋立地盤上への覆土	27,300m ² / 1.5m